

・深度53.17mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱った。

・深度53.17～53.22mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●53.17～53.22m：破砕部
 53.17m：礫混じり粘土状部 (Hc-2)
 上下端29°で直線的に連続。軟質で、径1～2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。
 53.17～53.22m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土～砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。

コア写真



連続性及び直線性が良い細粒部



細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 α は最新活動面

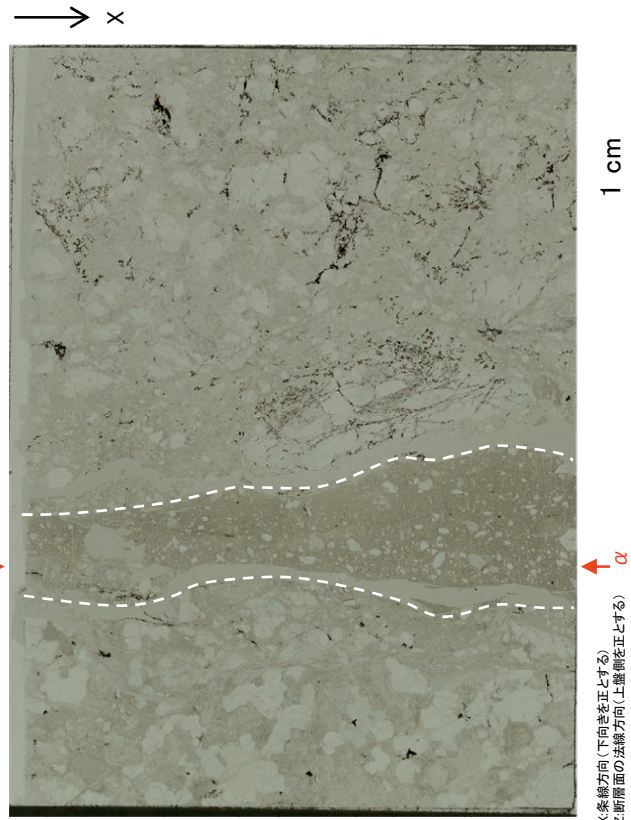
コア写真



薄片作製位置写真

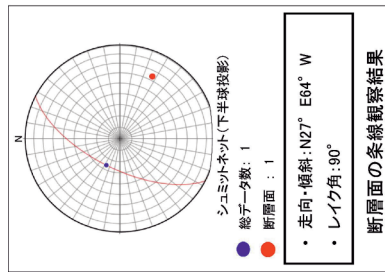


薄片全景写真(単ニコル)

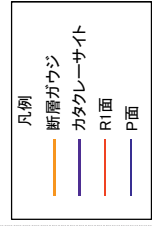
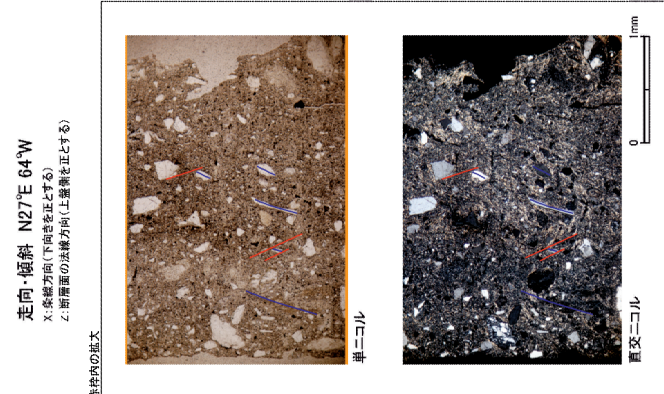
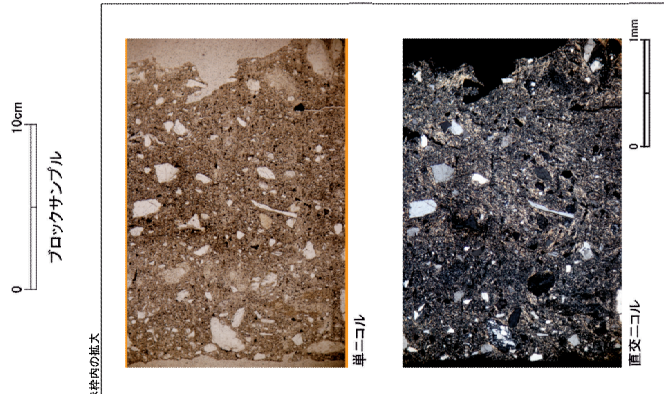
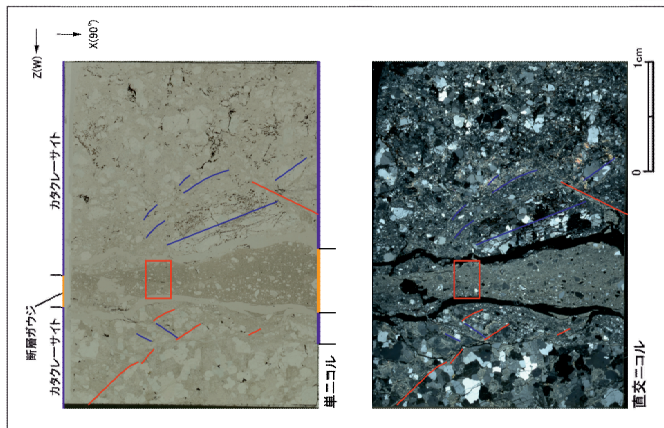
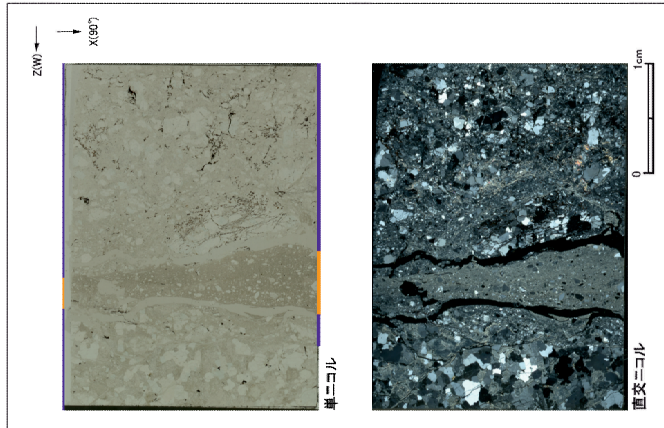
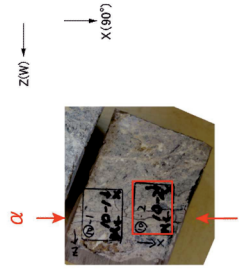
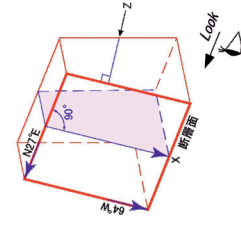


- H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 - 岩片は少ない。

※断層面 α は最新活動面

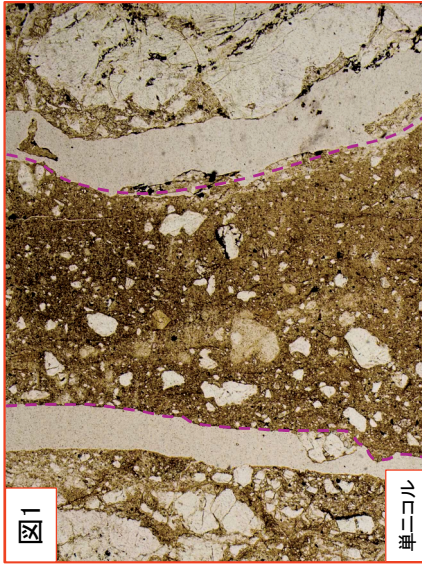


薄片の作製方向は断層面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

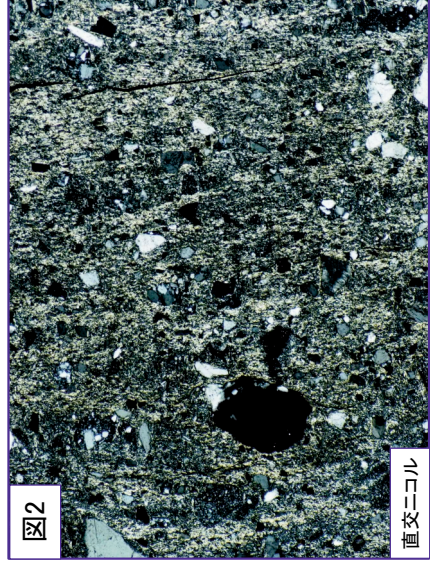
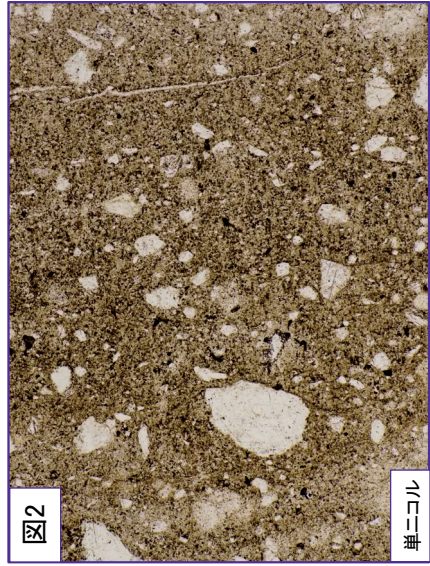
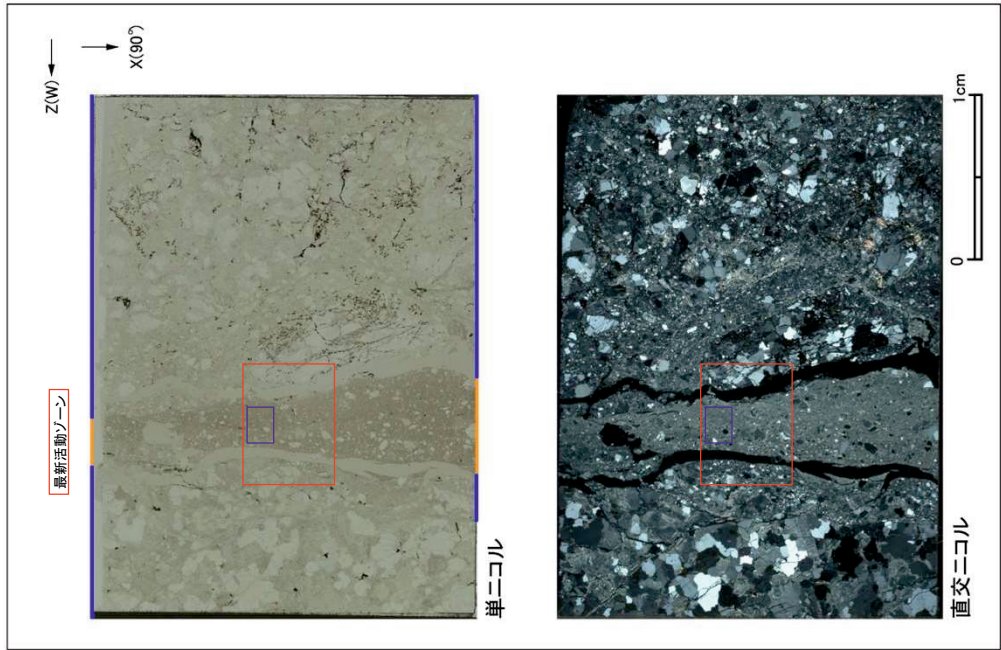
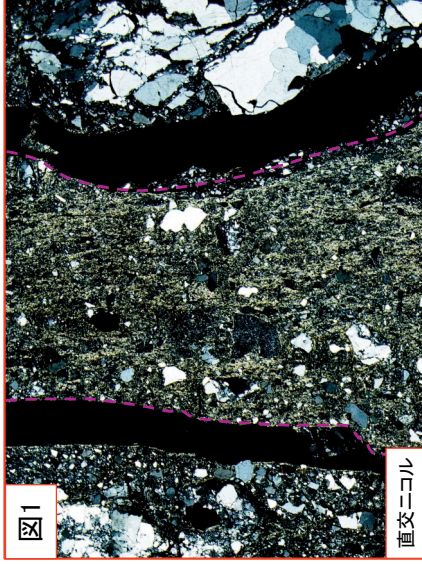


第7.4.4.270図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度53.17~53.22m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度53.17m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は、幅が狭いため、原岩組織が認められぬ岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかった。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部は、原岩組織の有無が把握できないことから、断層ガウジとして扱うこととした。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.2	無

* :断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度59.82～59.85mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度59.85mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

●59.82～59.85m：破碎部 (D-1)
 59.82～59.85m：粘土混じり岩片状部 (Hj)
 上端22° 一部不明瞭で波打って、下端28° で直線的に連続。径2～5mm石英粒、径5～10mm粘土化岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。幅30mm。
 59.85m：粘土状部 (Hc-1)
 上端28°、下端28° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1～2mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色～灰白色を呈し、縞状構造がみられる。幅5～7mm。

コア写真



凡例
 ─── 断層ガウジ
 ←── 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部



青砕部拡大

細粒部が網目状に分布する

第7.4.4.271図 (1) 破碎部性状 H27-B-1 深度59.82～59.85m (肉眼観察による断層岩区分)

・薄片は断層面 β 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面 β は最新活動面

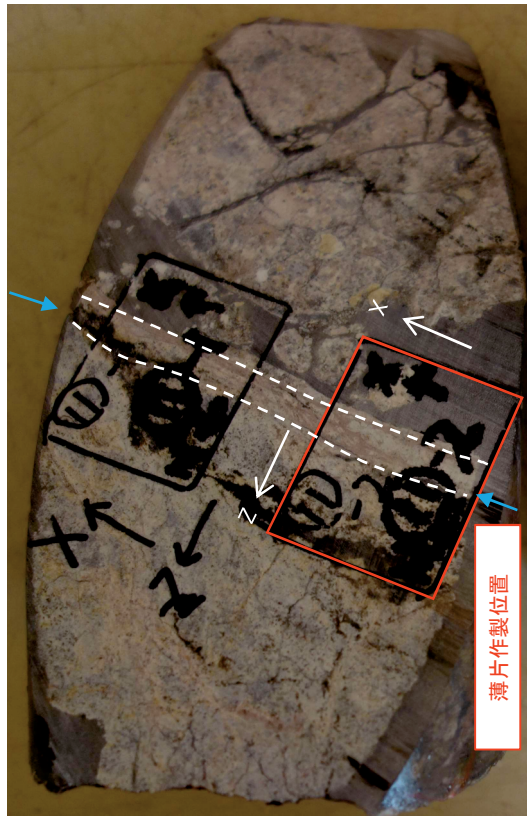
コア写真



凡例

- 断層ガウジ
- ← → 断層面
- 破碎部範囲※
- ※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

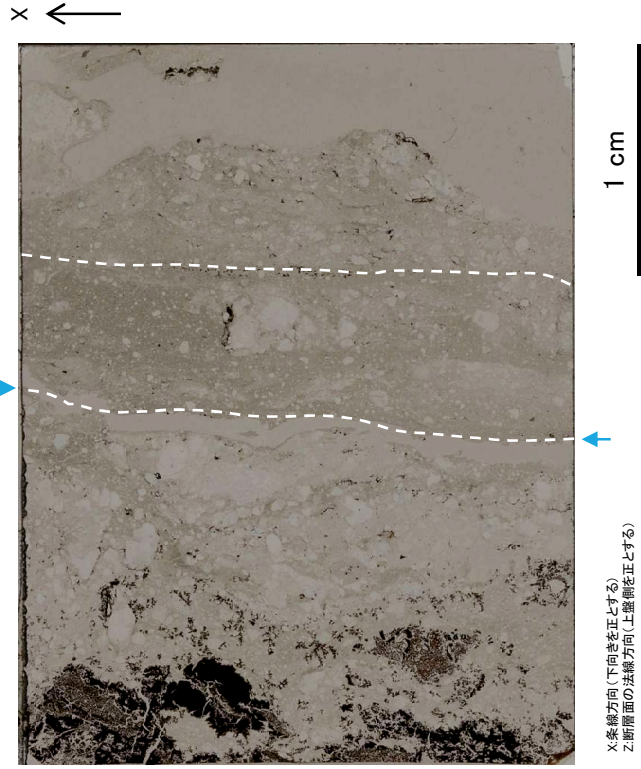


X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)

凡例

- 断層面
- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※
- ※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X:糸線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)